



大正っ子

帯広市立大正小学校

Obihiro Taisyō

Elementary School

<http://www.taisyō.obihirō.ed.jp>

No 81

平成29年3月17日

穏やかな日が続くとともに、陽の光も随分と温かみを感じるようになりました。グラウンドもすっかりと黒みを帯び、ところどころ茶色の地肌が顔をのぞかせています。さて、今年度も4日の登校を残すのみとなりました。今号では、卒業・進級を控えた今だからこそ、考えておきたいことなどを中心にお伝えします。

義務教育9カ年を見通して、子どもたちを育むために

～ 小中連携 + エリアファミリーの取組を通して ～

最近、小中連携とか小小連携、“中1ギャップ”・“小1プロブレム”といった言葉を耳にすることが多くなってきました。小中連携は、小学校6年間と中学校3年間の義務教育9カ年を見通した教育課程(学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した教育計画です。詳しくは、ナビゲーションブック”なるほど!!大正小P3をご覧ください)を共通理解に立って編成することで、小学校から中学校への接続をスムーズにし、子どもたちの学びをより確かなものにしようとするものです。

このように小学6年生が、中学校に進学する際に、小学校と中学校の学びの違いから子どもたちが感じるギャップを埋めていくことや複数の小学校から一つの中学校に進学することからくる小学校間での学びの違いをうまくカバーすることが、小中連携であり、小小連携ということになります。

また、保育所や幼稚園から小学校に入学する際に見られる生活環境の変化からくる困り感や適応の難しさをさして小1プロブレムとしています。本校ではこれまで、ことぶき保育所の年長組との交流学习や新入学児童健康診断、体験入学および説明会などを実施してきましたが、今後は、同様の取組を進めながらも、小1プロブレムの解消を念頭に進めていくことが大切だと考えています。

こうした中、これまでもお伝えしていますように帯広市では、中学校校区を中心とした連携を図る取組としてエリアファミリー構想の取組を進めています。今年度は七中エリアの取組として、ノーゲーム・テレビデーの取組、七中・愛国小・本校の教務担当・生徒指導担当者が中心となり、年に2回の交流会議をもちました(会議の柱は、各校の学習のきまりや生活のきまりを確認し、各校の独自性を保ちながらも、共通認識・理解に立って子どもたちに向き合うことができると考えています)。来年度も定期的に交流会議を開催しながら連携した取組を進めていきたいと考えています。

さて、今年度も残すところわずかとなりましたが、最近の取組を紹介していきます。

出前授業”アルファベットは音で表現しよう”(3/16)

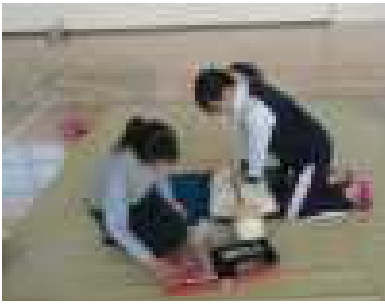
～ 英語を通して、中学校の授業にふれることができました ～

七中の八重崎 崇教諭、本田 大将教諭に英語の出前授業をしていただきました。これまで学習してきた外国語活動とは違う英語科の授業の雰囲気になれるまで時間はかかりましたが、カードに描かれたものを英語で答えていくうちに、自信をもって取り組めるようになりました。26のアルファベットの発音にふれ、イラストを交えて楽しく学習することができたようです。

八重崎先生、本田先生、お忙しい中、本当にありがとうございました。



平成32年度より、5・6年生で英語として週2時間、3・4年生では外国語活動が週1時間で実施されます。今後は改訂に向けて取り組んでいくこととなります。



人が倒れている。周囲の状況を確認するや、「大丈夫ですか？大丈夫ですか？」の声掛けとともに、心臓マッサージと人工呼吸は繰り返された。時間の経過とともに上達していく。大切な命をまもるために、生かすために必要な知識と技能を習得するために……。6年生で実施した「救急救命～AED体験教室～」の1コマです。

日本赤十字社救急救命指導員の村田真弓さんをはじめ3名の方を講師にお招きし、2コマかけて、じっくりと向き合いました。日頃、体験することがないだけに子どもたちにも良い機会となったようです。

ここで、子どもたちの感想を紹介していきます。

- 人が倒れていたらず周囲の確認、助けを呼ぶ、心臓マッサージをするのが大切なんだなと思いました。
- AEDは指示を出してくれるので、パニックになっていてもやり方を教えてくれるのでいいなと思いました。
- もし、街中や学校で人が倒れていたら、勇気を出して助けてあげようと思いました。
- 自分で積極的に心臓マッサージをして骨が折れても命が助かることが大切だということがわかった。

村田さんをはじめ、日本赤十字社救急救命指導員の皆さん、本当にありがとうございました。

巣立ちを前に、同窓会入会式が行われました

3月15日(水)に本校会議室において同窓会入会式が同窓会 草森浩司会長の臨席のもと行われました。草森会長からは同窓会の意義や歴史的な経過が説明され、これからは、「同じ学舎で学んだ仲間として本校を見守ってほしい」との激励を受けました。これを受けて橋爪儀侍さん、林 紗葉さんが入会にあたっての決意を語ってくれました。

写真は、真剣に式に臨む卒業生の様子と草森同窓会長からの激励を受け、宣誓をする様子を収めたものです。



第3回学校評議員会を終えて



3月17日(木)に今年度第3回目となる学校評議員会を開催しました。

今回は、1年間の締めくくりとして、学校評価やおびひろっ子絆支援事業、PTA活動などについて意見や要望をいただきました。

以下は、席上でだされたおもなものです。

- ・ 大正らしさを十分に発揮し、地域の人材や素材を積極的に活用している。子どもたちが生き生きと活動する場面が多く見られた。今後も継続してほしい。
- ・ 登下校の安全については、見守りボランティアの方々には、精力的にやっていただいた。また、降雪時の歩道の安全確保は、関係機関に働きかけて、安全な環境が整えられた。
- ・ 本校らしさを大切にして、独自色をだしてほしい。
- ・ 大正っ子は、元気で明るい。朝の登校時の挨拶は、大変立派である。
- ・ 今後も地域に根ざした教育を進めてほしい。また、地域行事にはこれまで通り、積極的な参加をお願いしたい。

など、学校と地域が一体となって子どもを育てる気運を育てていくことの重要性を持つことができました。お忙しい中、来校いただきまして誠にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

～学校評議員の皆さん、本当にありがとうございました～